

## 音楽教師に求められる社会的スキルについて

### - アンケート調査と授業評価をもとに -

41020920 帖佐 玲奈

教師が授業を行うためには、『授業を設計する力』『教材を研究する力』『授業を展開する力』『授業を分析する力』の4つの力が主に必要であり、この力は授業を行うための中核であるといわれている。しかし、この力は、あくまで生徒が積極的に授業に参加しているときに始めて作用するものであり、生徒の授業に対する積極性や、授業に向かう気持ちを高めなければ、これらの力は作用しない。

また、音楽の授業は他の教科とは違い生徒の表現活動が授業の大半を占めているため、授業中の雰囲気をよくし、生徒達のやる気を起こさせる事が特に重要になってくる。この環境を作り上げるために、音楽の教師に必要な能力は何かと考えたとき、これらの過程が、社会的スキルの一連のプロセスと、よく似ていることに気付いた。そこで、授業者の社会的スキル能力を測定し、授業者の授業評価と相関関係を分析することで、音楽の授業に必要な社会的スキル能力についての仮説を得ることが本研究の目的である。

調査全体の流れは、次の通りである。

1. 社会的スキルに関連する心理評定尺度をもとに、アンケートを作成した。
2. 平成17年度に実習を行う宮崎大学教育文化学部学校教育課程の学生に上記アンケートを回答させ、個々の社会的スキル得点を算出した。
3. 平成17年度に行う実習中に、実習生が行う合唱活動を含む授業を撮影した。
4. 撮影したものを授業の合唱風景や、実習生が生徒に対し指導を行っている場面を、VTRに1人2分程度に編集した。
5. 現役の音楽科教師に各実習生のVTRを見せ、後に述べる観点に基づいて評価をさせた。
6. 社会的スキル得点と、授業評価の相関関係を検討した。

これらの流れで行った。

また、使用した心理評定尺度は次の通りである。

## アンケート調査の内容

自己肯定意識尺度・・・・・・・・・・自分とは何かという自己意識の発達のうち、自己肯定性次元の個人差を、対自己領域と対他者領域の2つに分けて測定しているもの。

開示状況質問紙・・・・・・・・・・自分がある場所や人物と一緒にいるとき、どれくらい自己開示するかを測る尺度である。

ユーモア態度尺度・・・・・・・・・・ユーモアに対する好みの程度や反応性を測定するもので、他者に対して自分がどのようなユーモアを使用するかを測定するもの。

日本版 MLAM 承認欲求尺度・・・承認欲求を測定するもの。承認欲求とは、誰かに認めてもらいたいという欲求の事を指し、これが高ければ人の意見に左右されやすく、低ければ独断性の高い人間ということになる。

達成動機測定尺度・・・・・・・・・・「物事を最後までやり遂げたい」「困難なことにも挑戦し成功させたい」という動機を測定する尺度。

情動的共感性尺度・・・・・・・・・・人の情動や感情を感じ取る能力の測定するための尺度。

他者意識尺度・・・・・・・・・・他人に向けられた注意や関心、意識の方向を測る尺度。どのような場面で、どれだけ他者を意識しているかを測る。

EQ テスト・・・・・・・・・・自分自身の感情を知る、感情を制御する、自分を動機付ける、相手の感情を認識する、人間関係をうまく処理する、の5つの能力を測るテスト

また、授業評価に使用した質問項目は、次の通りである。

- |                             |                               |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 1 明るく親和的な話し方や態度ができています。     | 2 信頼できそう                      |
| 3 優れた判断力をもっている              | 4 優れた洞察力をもっている                |
| 5 授業に対する信念をもっていそう           | 6 生徒への愛情を感じる                  |
| 7 生徒への発言を促しているか             | 8 生徒の理解度を点検しているか              |
| 9 授業に集中していない生徒に注意できているか     | 10 明確で分かりやすい指示・説明ができていますか     |
| 11 生徒への的確な賞賛・激励ができていますか     | 12 教室内で立つ位置の適切な判断ができていますか     |
| 13 生徒の意欲や関心を高める工夫がなされているか   | 14 円滑な授業運営が行われているか            |
| 15 臨機応変の対応ができていますか          | 16 音楽的なイメージや表現の具体的な指導ができていますか |
| 17 授業や個々の活動の目標・めあてが明示されているか | 18 教師自身の音楽的知識・技能の達成度          |
| 19 積極的に範唱を行っているか            | 20 決然たる意思・態度があるか              |
| 21 総合評価                     |                               |

社会的スキル得点と、授業評価の相関関係を求めたところ、次のような結果が出てきた。

社会的スキル得点と、授業評価の相関関係

明るく親和的な話し方や態度ができてきている	競争的達成動機 r= - 0.7370*			
信頼できそう	競争的達成動機 r= - 0.7073*			
優れた判断力を持っている	一般的な意向度 r=0.7219*	社会的状況尺度 r=0.9404**	支援的ユーモア志向尺度 r= - 0.7500*	MLAM 承認欲求尺度 r= - 0.7235*
優れた洞察力を持っている	社会的状況尺度 r=0.7802*	MLAM 承認欲求尺度 r=-0.7283*		
授業に対する信念を持っていそうだ	自己表明・対人的積極性 r=0.7164*	社会的状況尺度 r=0.7948*		
生徒への愛情を感じる	競争的達成動機 r= - 0.7741*			
生徒の発言を促しているか	社会的デフトネス r=0.8239*			
授業に集中していない生徒に注意できているか	支援的ユーモア志向尺度 r= - 0.8142*			
明確で分かりやすい指示・説明ができていますか	自己表明・対人的積極性 r=0.8237*			
生徒への的確な賞賛・奨励ができていますか	社会的状況尺度 r=0.8195*	MLAM 承認欲求尺度 r= - 0.7906*		
教室内で立つ位置の適切な判断ができていますか	自己表明・対人的積極性 r=0.7777*	社会的状況尺度 r=0.7524*		
生徒の意欲や関心を高める工夫がなされていますか	社会的スキル r=0.8588**			
円滑な授業運営ができていますか	自己表明・対人的積極性 r=0.7253*	攻撃的ユーモア志向尺度 r= - 0.7128*		

臨機応変の対応ができていますか	自己表明・対人的積極性 $r=0.7680^*$	攻撃的ユーモア志向 尺度 $r=-0.8476^{**}$		
授業や個々の活動の目標・めあてが表示されているか	楽観性 $r=0.7857^*$	空想的他者意識 $r=0.7289^*$	自己動機づけ $r=0.8006^*$	自己閉鎖性・人間不信 $r=0.8316^*$
教師自身の音楽的知識・技能の達成度	社会的状況尺度 $r=0.7244^*$	支援的ユーモア志向 尺度 $r=-0.8729^{**}$		
積極的に範唱を行っているか	空想的他者意識 $r=0.7661^*$			
決然たる意志・態度があるか	攻撃的ユーモア志向 尺度 $(r=-0.8521)^{**}$	自己実現的態度 $r=0.7176^*$		
総合評価	自己表明・対人的積極性 $r=0.7651^*$	攻撃的ユーモア志向 尺度 $r=-0.7596^*$		

なお、これらの結果は非常にサンプルが少なかったため、偏相関ではなく、単相関のみの結果となっている。そのため相関係数が高くても、まったく関連のない見せかけの相関である可能性も考えられ、逆に、相関係数が低いものの中にも、関連があるものがある可能性も考えられる。

自己閉鎖性・人間不信得点は、他者不信のために、他者との関係の中で自分を生かすことができないことを指す。自己閉鎖性・人間不信得点は、「授業や個々の活動の目標・めあてが明示されているか」との問いと有意な正の相関が現れていた。つまり自己閉鎖性・人間不信得点の高い人は、授業中に目標やめあてを明示する傾向が高いと言える。この相関結果から、目標やめあては必ずしも明示することが望ましいと評価されているわけではなく、授業中の状況に応じて変化させていくことが望ましいと考えられた。このため、授業中に生徒の言語・非言語的な反応から雰囲気を感じ取り、授業の中に反映させていく能力が必要だと考えられる。

自己表明・対人的積極性は、他人の中で自分を生かすことができる、積極的に人とかかわっていけることを指す。自己表明・対人的積極性と「明確で分かりやすい指示・説明ができるか」「臨機応変の対応ができていますか」に有意な正の相関があった。明確でわかりやすい指示や、臨機応変の対応は、少しでも教師がためらう気持ちを持ってしまえば、行うことができない。そのためこの結果は、授業中に教師が自分の行動や言葉をためらうことなく、生徒の前で表出する必要性を指していると考えられる。開示状況質問用紙は、どのような状況で、どれくらい自分を出して

話すことができるかを測る。開示状況質問用紙は「優れた判断力をもっている」「優れた洞察力をもっている」「生徒への的確な賞賛・奨励ができているか」「教室内でたつ位置の適切な判断ができているか」「教師自身の音楽的知識・技能の達成度」などに有意な正の相関が現れた。これも自己表明・対人的積極性と同じで、授業中に教師が自分の行動や言葉をためらうことなく、生徒の前で表出する必要性を指していると考えられる。これらの結果から、音楽の教師には自分を表出する力・自己開示する力が必要だと考えることができる。

また、目的を達成することのみを重要視する姿勢を測る競争的達成動機は、「明るく親和的な話し方や態度ができている」「信頼できそうだ」「生徒への愛情を感じるか」との問いと有意な負の相関を示していた。つまり競争的達成動機の高い人は、明るく親和的な話し方や態度、生徒への愛情が感じられない傾向が高いと言える。競争的達成動機は、結果のみを重要視する達成動機であり、これに有意な負の相関が現れていたことから、授業は結果ではなく、結果までのプロセスを大切にすることが重要だと考えられる。実習生は授業を行うことが少なく、生徒が理解していく様子や、成長していく過程を理解していない。このためどうしても授業の結果を急いで出す傾向にあり、その際に生徒をせかしてしまうことが多いことから、この結果が得られたと考えられる。そのため結果を性急に求めるのではなく、音楽の授業中には、生徒の行動・言葉を「待つ」力が必要であると考えられる。

自己実現態度は、自分の取り組むべき課題・役割・目標を発見してそれらを達成しようと取り組み、生きがい感や意欲を感じていることを指している。自己実現態度と、「決然たる意思・態度があるか」との問いに有意な正の相関があることから、目標を明確に持っている実習生ほど、一貫した授業を行うことができると評価されていることが分かった。MLAM 承認欲求尺度は、誰かに認めてもらいたいという欲求を測り、これが高ければ人の意見に左右されやすく、低ければ独断性の高い人間ということになる。MLAM 承認欲求尺度では、「優れた判断力をもっている」「優れた洞察力を持っている」「生徒への的確な賞賛・奨励ができているか」との問いに有意な負の相関が現れていた。他人の意見に左右されると、優れた判断力・洞察力で物事を見極めることができない。このため、他者に認めてもらいたい、他人の意見に左右されやすいことは、音楽の授業を行ううえでよくないことであると考えられた。これらの結果から、音楽の教師は信念を持って授業に取り組む必要があると考えられる。

これらのことから、音楽の教師に必要な社会的スキルは

1. 授業中に生徒の言語・非言語的な反応から雰囲気を感じ取り、

授業の中に反映させていく能力

- 2．自分を表出する力・自己開示する力
- 3．生徒の行動・言葉を「待つ」力
- 4．信念を持って授業に取り組む力

の4つであると考えられる。

今回出された結果は、ほんの一部であり、音楽の授業に必要な力は、他にもあると考えられる。また、実験法・サンプル数、その他さまざまな要因により、今回出された結果も、必ずしも音楽の授業に必要な力であるということができない。このため、今後の課題として、今回出された結果の検証、音楽の授業に必要なその他の力を見つけ出すこと、また今回出された結果が、今後どのように変化してくるかを調査する必要がある。